



我々をとりまく階級情勢

清野分析(3)

66.3.25
先駆社
東京本社
大阪支社
京都支社

の戦後日本の階級斗争は、次の三つに区分して把握されなければならぬ。

①一九四五(一)一五〇年
②一九四五(二)一五〇年
③一九四五(三)一五〇年

①一九四五(一)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

②一九四五(二)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

③一九四五(三)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

④一九四五(四)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑤一九四五(五)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑥一九四五(六)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑦一九四五(七)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑧一九四五(八)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑨一九四五(九)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑩一九四五(一〇)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

⑪一九四五(一一)一五〇年
この時期は、日露戦後の大規模な改革期である。ブルジョア社会は、これによって大きく弱体化した。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。ブルジョア社会は、ブルジョア社会の崩壊を恐れた。

先駆を讀もう

先駆社

注 // 読む順序(段数) (一) ↓ (二) ↓ (三) ↓ (四) ↓ (五)

先して、かかる斗争が、市民主義運動内から成長して、その最左派として行動して来た青年労働者、インテリをゆき、彼等をして階級的境地と階級的政策的の必要

⑪、六〇年の安保斗争は、五五年以降、市民主義は、如軍備から登場しているが、ヘトモニをとり

⑫、安保斗争は、市民主義理論の東価を鮮明にうち示した。市民主義は、一方で、マルジョアジ

⑬、安保斗争は、市民主義理論の東価を鮮明にうち示した。市民主義は、一方で、マルジョアジ

マルジョアジは、市民主義の根強い抵抗にあつて、安保改定を行

は、自らのいちぢくの基である議会制民主主義を、自らの手で破壊せざるをえなかつた。岸内閣改組は、60年5月19日、強引な一方

⑭、とらうで、マルジョアジにとつて、彼らが、一たび、その政策を国会通過させるや、次にこ

⑮、日本マルジョアジは、その高度成長を背景に、所得倍増政策を提唱し、日本資本主義史上は

⑯、日本マルジョアジは、その高度成長を背景に、所得倍増政策を提唱し、日本資本主義史上は

政治における迂回政策、至

う反権力的上向の追求であつた。だが、同盟は、それへの系統的指図をなしえず、安保の終息を

⑰、安保改定は、階級情勢は、計算—60年と推測したまじし

⑱、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

⑳、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

小寒細の五連れ) ↓ 物価上昇と実

もたれ、秩序回復の後半が、市民主義にうけもたれて構成されたのだ。別言すれば、市民主義は、中

⑳、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

㉑、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

㉒、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

小寒細の五連れ) ↓ 物価上昇と実

者における大衆の一定の圧向向上、政府、マルジョアジは、このことを通して大衆運動、大衆組織の空洞化をおしすすめていた

㉓、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

㉔、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

㉕、日本資本主義の脆弱性は、具体的には、消費者物価の上昇と

小寒細の五連れ) ↓ 物価上昇と実

(1) 次に、中小企業及び農業の内部についておいてみる。高成長下で、大きく育った資本（中堅企業）もあつたが、大部分は、大資本との格差をちぢめず、むしろ大資本の強蓄積の基盤として收養され、資本主義の正途へ従つて二重構造の再生産が繰り返された。しかも、高成長に伴う若年労働力の逼迫、賃金上昇は、低賃金雇傭労働者があつた。中小企業は、おびやかされておられ、若年労働力の不足、着目させず、中流の階級労働力のあつておられる。

(2) 国庫競争と不況は、独占資本を押し下請中小企業の整理にむかわせておられ、現在、ふるいの作業が行われておられる。

(3) 高成長下で人口流が続き、農業従事者が激減、トヨタや日産が労働力の不足を感ずり、人選を厳しにする。農業は、どうにか高度成長下で人口流が続き、農業従事者が激減、トヨタや日産が労働力の不足を感ずり、人選を厳しにする。

一挙に表面化させるであろう。農業では食つておられた農民の姿、日本農業の俗性産性（か、くつきり）とあらわにならう。

(4) かかる日本資本主義の新局面は、カールシュア政治を以てしように方向に推転させるであろうか。それは、まず、国内的には、国産と海外との関係、より直接性を帯びてあらわれるであろう。戦後第一期局面にあつたは、国家資本のものとしてみても、国家資本の労働運動の対決した。

(5) 日本資本主義が、その再建の過程で、労働運動の強さを弱くし、高成長を維持し、国家は、資本と労働の間に距離をとり、いわば一種の擬似市民権を授けられたのであつた。

(6) 日本資本主義の歴史は、国家の政策的介入によるものであつた。

(7) 日本資本主義の脆弱性は、かなりおぼろげに、至者への国家の権力的介入の必要としてあらわされた。

(8) これより二期にあつては、かなり個人資本が、そのマクロプロレタリアートをなすとしておられる。大経済斗争もともかくも、個別的経済斗争に対しては、國家は、それを個別的資本にまかせることが出来た。諒解を恐れず、あえて極端に述べるならば、経済斗争は、それ自身と

しては、資本のつりかへで環境運動は、他方、政治斗争は、生産点の争いと、労働運動は、街頭斗争として展開されたのであつた。従つて、生産点、プロレタリアートとは、資本とプロレタリアートと同一性が、異質的に認識される契機が少なかった。日本資本主義の高成長は、権力と資本との関係（生産点）の同一性を不明にさせた。――とておられる。

(9) その脆弱性が、両者の同一性を鮮明にした。――のゝた。三期階級斗争は、その結果として、三期階級斗争は、政治斗争での企業主義、政治斗争での街頭主義は、かからぬ高成長という客観的基盤と労働運動の敗北という所相があらわつて形勢を築いたものであつた。

(10) さて、三期の争いは、既述の通り、擬似市民権を授けられたのであつた。資本と労働の間の距離が、かなりおぼろげに、至者への国家の権力的介入の必要としてあらわされた。――のゝた。三期階級斗争は、その結果として、三期階級斗争は、政治斗争での企業主義、政治斗争での街頭主義は、かからぬ高成長という客観的基盤と労働運動の敗北という所相があらわつて形勢を築いたものであつた。

(11) さて、三期階級斗争はおもむろに、労働運動の弱体化と、市民の自衛的権限の喪失を促した。――のゝた。三期階級斗争は、その結果として、三期階級斗争は、政治斗争での企業主義、政治斗争での街頭主義は、かからぬ高成長という客観的基盤と労働運動の敗北という所相があらわつて形勢を築いたものであつた。

(12) さて、三期階級斗争は、その結果として、三期階級斗争は、政治斗争での企業主義、政治斗争での街頭主義は、かからぬ高成長という客観的基盤と労働運動の敗北という所相があらわつて形勢を築いたものであつた。

(13) さて、三期階級斗争は、その結果として、三期階級斗争は、政治斗争での企業主義、政治斗争での街頭主義は、かからぬ高成長という客観的基盤と労働運動の敗北という所相があらわつて形勢を築いたものであつた。

丸山寅雄等々のグループやで、いわば、真性市民主義者というべき連中がある。彼等は、一筋一筋として市民主義の力を示すついでに、資本主義の強蓄積の基盤として收養され、資本主義の正途へ従つて二重構造の再生産が繰り返された。しかも、高成長に伴う若年労働力の逼迫、賃金上昇は、低賃金雇傭労働者があつた。中小企業は、おびやかされておられ、若年労働力の不足、着目させず、中流の階級労働力のあつておられる。

(14) 次に、日本労働運動の主流へ。大田岩井の労働運動の研究を刊行するならば、大企業本工を基盤とした運動

2) 経済主義、モノトリ主義。政治リズムは、この二つの並びは、青年活動家自身のワウ内につなぐと、ゆるいものでは、主眼はあくまでも経済主義の周

3) 買上げと合理化の両者の方式等のことはいささう。

② 市場における資本の勝利 → 反台斗争放棄

③ モノトリ組織化 → 物とり主義

④ 組合の官僚化

この動きは、IMF-JCとして、鉄釘、電線、自動車等日本の基礎産業の労働者を相手にし、

この動きは、IMF-JCとして、鉄釘、電線、自動車等日本の基礎産業の労働者を相手にし、

この動きは、IMF-JCとして、鉄釘、電線、自動車等日本の基礎産業の労働者を相手にし、

① 公務労務労働者の相対的賃金

② 企業間競争をなく、企業意欲を注入

さしつかえなく進めたい。総評の危機は、決して、進行していきな

2) さて、総評の一部をなしている

3) 総評は、現在、党員約五万

4) 総評は、現在、党員約五万

5) 総評は、現在、党員約五万

6) 総評は、現在、党員約五万

7) 総評は、現在、党員約五万

8) 総評は、現在、党員約五万

9) 総評は、現在、党員約五万

10) 総評は、現在、党員約五万

社民内の小異の対抗問題以上に社民の根柢——民法主義、民族問題

11) さて、日本資本主義の二重構造

12) さて、日本資本主義の二重構造

13) さて、日本資本主義の二重構造

14) さて、日本資本主義の二重構造

15) さて、日本資本主義の二重構造

16) さて、日本資本主義の二重構造

17) さて、日本資本主義の二重構造

18) さて、日本資本主義の二重構造

19) さて、日本資本主義の二重構造

時的に、大企業独占を打ち直して

20) さて、日本資本主義の二重構造

21) さて、日本資本主義の二重構造

22) さて、日本資本主義の二重構造

23) さて、日本資本主義の二重構造

24) さて、日本資本主義の二重構造

25) さて、日本資本主義の二重構造

26) さて、日本資本主義の二重構造

27) さて、日本資本主義の二重構造

28) さて、日本資本主義の二重構造

しかし、担保の一、二年後より

29) さて、日本資本主義の二重構造

30) さて、日本資本主義の二重構造

31) さて、日本資本主義の二重構造

32) さて、日本資本主義の二重構造

33) さて、日本資本主義の二重構造

34) さて、日本資本主義の二重構造

35) さて、日本資本主義の二重構造

36) さて、日本資本主義の二重構造

37) さて、日本資本主義の二重構造

(終)